校異源氏物語・うき舟

宮なをかのほのかなりしゆふへをおほしわするゝよなしこと　くしきほとには
あるましけなりしを人からのまめやかにおかしうもありしかなといとあたなる
御こゝろはくちをしくてやみにしことゝねたうおほさるゝまゝに女きみをもか
うはかなきことゆへあなかちにかゝるすちのものにくみしたまひけりおもはす
にこゝろうしとはつかしめうらみきこえ給おり　くはいとくるしくてありのま
ゝにやきこえてましとおほせとやむことなきさまにはもてなしたまはさなれと
あさはかならぬかたにこゝろとゝめて人のかくしおき給へるひとをものいひさ
かなくきこえいてたらんにもさてきゝすくし給へき御心さまにもあらさめりさ
ふらふ人のなかにもはかなうものをものたまひふれむとおほしたちぬるかきり
はあるましきさとまてたつねさせ給御さまよからぬほんしやうなるにさはかり
月日をへておほしゝむめるあたりはましてかならすみくるしきことゝりいてた
まひてんほかよりつたへきゝ給はんはいかゝはせんいつかたさまにもいとをし
くこそはありともふせくへき人の御心ありさまならねはよその人よりはきゝに
くゝなとはかりそおほゆへきとてもかくてもわかをこたりにてはもてそこなは
しとおもひかへし給つゝいとをしなからえきこえいてたまはすことさまにつき
　くしくはえいひなし給はねはをしこめてものゑんししたるよのつねのひとに
なりてそおはしけるかの人はたとしへなくのとかにおほしをきてゝまちとをな
りとおもふらんと心くるしうのみおもひやりたまひなからところせき身のほと
をさるへきついてなくてかやすくかよひたまふへきみちならねは神のいさむる
よりもわりなしされといまいとよくもてなさんとすやまさとのなくさめおもひ
をきてしこゝろあるをすこし日かすもへぬへきことゝもつくりいてゝのとやか
にゆきてもみむさてしはしはひとのしるましきすみところしてやう　くさるか
たにかのこゝろをものとめをきわかためにも人のもときあるましくなのめにて
こそよからめにはかになに人そいつよりなときゝとかめられむもゝのさわかし
くはしめのこゝろにたかふへし又みやの御かたのきゝおほさんこともゝとのと
ころをきは　くしくゐてはなれむかしをわすれかほならんいとほいなしなとお
ほししつむるもれいのゝとけさすきたる心からなるへしわたすへきところおほ

しまうけてしのひてそつくらせ給けるすこしいとまなきやうにもなりたれとみ
やの御方にはなをたゆみなくこゝろよせつかうまつりたまふことをなしやうな
りみたてまつる人もあやしきまて思へれとよの中をやう　くおほしゝり人のあ
りさまをみたまふまゝにこれこそはまことにむかしをわすれぬこゝろなかさの
なこりさへあさからぬためしなめれとあはれもすくなからすねひまさり給まゝ
に人からもおほえもさまことにものし給へはみやの御こゝろのあまりたのもし
けなきとき　くはおもはすなりけるすくせかなこひめきみのおほしをきてしま
ゝにもあらてかくものおもはしかるへきかたにしもかゝりそめけんよとおほす
おり　くおほくなんされとたいめんしたまふことはかたしとし月もあまりむか
しをへたてゆきうち　くの御心をふかうしらぬ人はなを　くしきたゝ人こそさ
はかりのゆかりたつねたるむつひをもわすれぬにつき　くしけれ中　くかうか
きりあるほとにれいにたかひたるありさまもつゝましけれはみやのたえすおほ
しうたかひたるにいよいよくるしうおほしはゝかり給てをのつからうときさま
になりゆくをさりとてもたえすおなし心のかはりたまはぬなりけりみやもあた
なる御ほん上こそみまうきふしもましれわかきみのいとうつくしうおよすけた
まふまゝにほかにはかゝる人もいてくましきにやとやむことなきものにおほし
てうちとけなつかしきかたには人にまさりてもてなしたまへはありしよりはす
こしものおもひしつまりてすくしたまふむ月のついたちすきたるころわたり給
てわか君の御としまさりたまへるをもてあそひうつくしみたまふひるつかたち
ひさきわらはみとりのうすやうなるつゝみふみのおほきやかなるにちゐさきひ
けこをこまつにつけたるまたすく　くしきたてふみとりそへてあふなくはしり
まいる女君にたてまつれはみやそれはいつくよりそとのたまふうちより大夫の
おとゝにとてもてわつらひ侍つるをれいの御前にてそこらむせんとてとり侍ぬ
るといふもいとあはたゝしきけしきにてこのこはかねをつくりていろとりたる
こなりけりまつもいとよくにてつくりたるえたそとよとゐみていひつゝくれは
みやもわらひ給ていてわれももてはやしてんとめすを女君いとかたはらいたく
おほしてふみは大夫かりやれとのたまふ御かほのあかみたれはみや大将のさり
けなくしなしたるふみにや宇治のなのりもつき　くしとおほしよりてこのふみ
をとりたまひつさすかにそれならんときにとおほすにいとまはゆけれはあけて
みんよゐむしやしたまはんとするとの給へはみくるしうなにかはその女とちか
きかよはしたらんうちとけふみを御覧せんとのたまふかさはかぬけしきなれは
されはみんよ女のふみかきはいかゝあるとてあけたまへれはいとわかやかなる

てにておほつかなくてとしもくれ侍にける山さとのいふせさこそみねのかすみもたえまなくてとてはしにこれはわか宮のこせんにあやしう侍めれとゝかきたりことにらう　くしきふしもみえねとおほえなきを御めたてゝこのたてふみをみたまへはけに女のてにてとしあらたまりてなにことかさふらふ御わたくしにもいかにたのもしき御よろこひおほく侍らんこゝにはいとめてたき御すまひのこゝろふかさをなをふさはしからすみたてまつるかくてのみつく　くとなかめさせ給よりはとき　くはわたりまいらせたまひて御こゝろもなくさめさせ給へとおもひ侍につゝましくおそろしきものにおほしとりてなんものうきことになけかせたまふめるわか宮のをまへにとてうつちまいらせ給おほきおまへのこらんせさらんほとにこらむせさせ給へとてなんとこま　くとことゝみもえしあえすものなけかしけなるさまのかたくなしけなるもうちかへし　くあやしとこらんしていまはの給へかしたかそとのたまへはむかしかのやまさとにありける人のむすめさるやうありてこのころかしこにあるとなんきゝ侍しときこえたまへはをしなへてつかうまつるとはみえぬふみかきを心え給にかのわつらはしきことあるにおほしあはせつうつちおかしうつれ　くなりける人のしわさとみえたりまたふりにやまたちはなつくりてつらぬきそへたるえたに

　またふりぬものにはあれと君かためふかき心にまつとしらなんとことなることなきをかのおもひわたる人にやとおほしよりぬるに御めとまりて返事したまへなさけなしかくい給へきふみにもあらさめるをなと御けしきのあしきまかりなんよとてたち給ぬ女きみ少将なとしていとをしくもありつるかなおさなき人のとりつらんを人はいかてみさりけるそなとしのひてのたまふみたまへましかはいかてかはまいらせましすへてこのこは心地なうさしすくして侍りをひさきみえて人はおほとかなるこそおかしけれなとにくめはあなかまおさなき人なはらたてそとのたまふこそのふゆひとのまいらせたるわらはのかほはいとうつくしかりけれはみやもいとらうたくしたまふなりけりわか御かたにおはしましてあやしうもあるかなうちに大将のかよひたまふことはとしころたえすときくなかにもしのひてよるとまりたまふときもありと人のいひしをいとあまりなる人のかたみとてさるましきところにたひねし給らんことゝおもひつるはかやうの人かくしをき給へるなるへしとおほしうることもありて御ふみのことにつけてつかひたまふ大内記なる人のかのとのにしたしきたよりあるをおほしいてゝ御前にめすまいれりゐんふたきすへきに集ともえりいてゝこなたなるつしにつむへきことなとのたまはせて右大将のうちへいまする事なをたへはてすやてら

をこそいとかしこくつくりたなれいかてかみるへきとのたまへはてらいとかし
こくいかめしくつくられてふたんの三昧たうなといとたうとくをきてられたり
となんきゝたまふるかよひ給ことはこその秋ころよりはありしよりもしは　く
ものし給なりしもの人　くのしのひてまうしゝは女をなんかくしすへさせたま
へるけしうはあらすおほす人なるへしあのわたりにらうしたまふところ　くの
人みなおほせにてまいりつかうまつるとのゐにさしあてなとしつゝ京よりもい
としのひてさるへきことなとゝはせ給いかなるさいはひ人のさすかにこゝろほ
そくてゐたまへるならんとなんたゝこのしはすのころをひ申すときゝたまひし
ときこゆいとうれしくもきゝつるかなとおもほしてたしかにその人とはいはす
やかしこにもとよりあるあまそとふらひたまふときゝしあまはらうになんすみ
侍なるこの人はいまたてられたるになんきたなけなき女房なともあまたしてく
ちをしからぬけはひにてゐて侍ときこゆおかしきことかなゝにこゝろありてい
かなる人をかはさてするゑたまへらんなをいとけしきありてなへての人にゝぬ人
のみこゝろなりや右のおとゝなとのこの人のあまり道心にすゝみてやまてらに
夜さへともすれはとまり給なるかろ　くしともとき給ときゝしをけになとかさ
しも仏のみちにはしのひありくらんなをかのふるさとにこゝろをとゝめたると
なんきゝしかゝることこそはありけれいつら人よりはまめなるとさかしかるひ
としもことに人のおもひいたるましきくまあるかまへよとの給ていとをかしと
おほいたりこの人はかのとのにいとむつましくつかうまつる家司のむこになん
有けれはかくし給こともきくなるへし御こゝろのうちにはいかにしてこの人を
みし人かともみさためんかのきみのさはかりにてすへたるはなへてのよろし人
にはあらしこのわたりにはいかてうとからぬにかはあらん心をかはしてかくし
たまへりけるもいとねたうおほゆたゝそのことをこのころはおほしゝみたりの
りゆみ内宴なとすくして心のとかなるにつかさめしなといひて人のこゝろつく
すめるかたはなにともおほさねは宇治へしのひておはしまさんことをのみおほ
しめくらすこの内記はのそむことありてよるひるいかて御こゝろにいらんとお
もふころ例よりはなつかしうめしつかひていとかたきことなりともわかいはん
ことはたはかりてんやなとのたまふかしこまりてさふらふいといとひんなきこ
となれとかのうちにすむらん人はゝやうほのかにみしひとのゆくゑもしらすな
りにしか大将にたつねとられにけりときゝあはすることこそあれたしかにはし
るへきやうもなきをたゝものよりのそきなとしてそれかあらぬかとみさためん
となんおもふいさゝか人にしらるましきかまへはいかゝすへきとのたまへはあ

なわつらはしとおもへとおはしまさんことはいとあらき山こえになん侍れとこ
とにほとゝをくはさふらはすなんゆふつかたいてさせおはしましてゐねのとき
にはおはしつきなんさてあか月にこそはかへらせたまはめ人しり侍らんことは
たゝ御ともにさふらひ侍らんこそはそれもふかき心はいかてかしり侍らんと申
すさかしむかしもひとたひふたゝひかよひしみち也かる　くしきもときおひぬ
へきかものゝきこえのつゝましきなりとてかへす　くあるましきことにわか御
こゝろにもおほせとかうまてうちいてたまへれはえおもひとゝめたまはす御と
もにむかしもかしこのあんないしれりしもの二三人この内記さては御めのとこ
のくら人よりかうふりえたるわかき人むつかしきかきりえり給て大将けふあす
よにおはせしなむと内記によくあんないきゝ給ていてたちたまふにつけてもい
にしへをおほしいつあやしきまてこゝろをあはせつゝいてありきし人のために
うしろめたきわさにもあるかなとおほしいつることもさま　くなるに京のうち
たにむけに人しらぬ御ありきはさいへともえし給はぬ御みにしもあやしきさま
のやつれすかたして御馬にておはする心地もゝのおそろしうやゝましけれとも
ものゝゆかしきかたはすゝみたる御心なれはやまふかくなるまゝにいつしかい
かならんみあはする事もなくてかへらんこそさう　くしくあやしかるへけれと
おほすに心もさはき給ほうしやうしのほとまては御くるまにてそれよりそ御む
まにはたてまつりけるいそきてよひすくるほとにおはしましぬ内記あんないよ
くしれるかのとのゝ人にとひきゝたりけれはとのゐ人あるかたにはよらてあし
かきしこめたるにしをもてをやをらすこしこほちていりぬわれもさすかにまた
みぬ御すまひなれはたと　くしけれと人しけうなとしあらねはしむ殿のみなみ
にそひほのくらみえてそよ　くとするおとするまいりてまた人はおきて侍へし
たゝこれよりおはしまさむとしるへしていれたてまつるやをらのほりてかうし
のひまあるをみつけてよりたまふにいよすはさら　くとなるもつゝましあたら
しうきよけにつくりたれとさすかにあら　くしくてひまありけるをたれかはき
てみんとうちとけてあなもふたかすき丁のかたひらうちかけてをしやりたりひ
あかうともしてものぬふ人三四人ゐたりわらはのおかしけなるいとをそよるこ
れかゝをまつかのほかけにみたまひしそれなりうちつけめかとなをうたかはし
きにうこんとなのりしわかき人もありきみはかいなをまくらにてひをなかめた
るまみかみのこほれかゝりたるひたひつきいとあてやかになまめきてたいの御
かたにいとようおほえたりこの右近ものをるとてかくてわたらせ給なはとみに
しもえかへりわたらせたまはしをとのはこのつかさめしのほとすきてついたち

ころにはかならすおはしましなんと昨日の御つかひも申けり御ふみにはいかゝきこえさせ給けんといへといらへもせすいとものおもひたるけしきなりおりしもはひかくれさせ給たらんやうならむかみくるしさといへはむかひたる人それはかくなんわたりぬると御せうそくきこえさせたまへらんこそよからめかろ

くしういかてかはをとなくてははひかくれさせ給はん御ものまうてのゝちはやかてわたりをはしましねかしかくてこゝろほそきやうなれと心にまかせてやすらかなる御すまひにならひて中　くたひこゝちすへしやなといふまたあるはなをしはしかくてまちきこえさせ給はんこそのとやかにさまよかるへきや京へなとむかへたてまつらせたらんのちおたしくておやにもみえたてまつらせ給へかしこのをとゝのいときうにものしたまひてにはかにかくきこえなしたまふなめりかしむかしもいまもものねむしゝてのとかなる人こそさいはひはみはて給なれなとといふなり右近なとてこのまゝをとゝめたてまつらすなりにけんおひぬる人こそ人はむつかしきこゝろのあるにこそとにくむはめのとやうの人をそしるなめりけにゝくきものありかしとおほしいつるもゆめの心ちそするかたわらいたきまてうちとけたることゝもをいひてみやのうへこそいとめてたき御さいわひなれ右の大殿のさはかりめてたき御いきをひにていかめしうのゝしりたまふなれとわかきみむまれたまひてのちはこよなくそおはしますなるかゝるさかしら人とものおはせて御心のとかにかしこうもてなしておはしますにこそあんめれといふとのたにまめやかにおもひきこえ給ことかはらすはをとりきこえ給へきことかはといふをきみすこしをきあかりていとき〻にくきことよその人にこそおとらしともいかにともおもはめかの御ことなかけてもいひそもりきこゆるやうもあらはかたはらいたからんなといふなにはかりのしそくにかあらんいとよくもにかよひたるけはひかなとおもひくらふるにこゝろはつかしけにあてなるところはかれはいとこよなしこれはたゝらうたけにこまかなるところそいとをかしきよろしうなりあはぬところをみつけたらんにてたにさはかりゆかしとおほしゝめたる人をそれとみてさてやみ給へき御こゝろならねはましてくまなくみたまふにいかてかこれをわかものになすへきとこゝろもそらになりたまひてなをまほり給へは右近いとねふたしよへもすゝろにおきあかしてきつとめての程にもこれはぬひてんいそかせ給とも御くるまはひたけてあらんといひてしさしたるものともとりくしてき丁にうちかけなとしてうたゝねのさまによりふしぬきみもすこしおくにいりてふす右こんはきたおもてにいきてふすしはしありてそきたるきみのあとちかくふしぬねたしとおもひけれはいとゝうねい

りぬるけしきをみたまひてまたせんやうもなければはしのひやかにこのかうしをたゝき給右こんきゝつけてたそとゝふこはつくり給へはあてなるしはふきときゝしりてとのゝおはしたるにやとおもひておきていてたりまつこれあけよとのたまへはあやしうおほえなきほとにも侍かなよはいたくふけ侍ぬらんものをといふものへわたりたまふへかむなりとなかのふかいひつれはおとろかれつるまゝにいてたちていとこそわりなかりつれまつあけよとのたまふこゑいとようまねひにせ給てしのひたれはおもひもよらすかいはなちつみちにていとわりなくおそろしきことのありつれはあやしきすかたになりてなんひくらうなせとのたまへはあないみしとあはてまとひてひはとりやりつわれ人にみすなよきたりとて人をとろかすなといとらう　くしき御こゝろにてもとよりもほのかにゝたる御こゑをたゝかの御けはひにまねひていりたまふゆゝしきことのさまとのたまひつるいかなる御すかたならんといとをしくてわれもかくろへてみたてまつるいとほそやかになよ　くとしやうそきてかのかうはしきこともおとらすちかくよりて御そともぬきなれかほにうちふしたまへれは例のおましにこそなといへとものものたまはす御ふすまゝいりてねつる人　くおこしてすこしゝそきてみなねぬ御ともの人なとれいのこゝにはしらぬならひにてあはれなるよのおはしましさまかなかゝる御ありさまを御らんしゝらぬよなとさかしらかる人もあれとあなかまたまへよこへはさゝめくしもそかしかましきなといひつゝねぬ女君はあらぬ人なりけりとおもふにあさましういみしけれとこゑをたにせさせたまはすいとゝつゝましかりしところにてたにわりなかりし御こゝろなれはひたふるにあさましはしめよりあらぬ人としりたらはいさゝかいふかひもあるへきをゆめのこゝちするにやう　くそのおりのつらかりしとしころおもひわたるさまのたまふにこのみやとしりぬいよ　くはつかしうかのうへのおほさんことなとおもふに又たけきことなけれはかきりなうなくみやもなか　くにてたはやすくあひみさらんことをゝほすになきたまふ夜はたゝあけにあく御ともの人きてこはつくる右近きゝてまいれりいて給へきこゝちもなくあかすあはれなるに又おはしまさんこともかたけれは京にはもとめさはかるともけふはかりはかくてあらんなにこともいけるかきりのためにこそあれたゝいまいてをはしまさんをまことにしぬへくおほさるれはこの右近をめしよせていと心ちなしとおもはれぬへけれと今日はえいつましうなんあるをのこともはこのわたりちかゝらんとこころによくかくろへてさふらへときかたは京へものしてやまてらにしのひてなとつき　くしからんさまにいらへなとせよとの給にいとあさましくあきれてこゝ

ろもなかりけるよのあやまちをゝもふにこゝちもまとひぬへきをおもひしつめていまはよろつにおほゝれさはくともかひあらし物からなめけなりあやしかりしおりにいとふかくおほしいれたりしもかうのかれさりける御すくせにこそありけれ人のしたるわさかはと思なくさめてけふ御むかへにと侍しをいかにせさせ給はんとする御ことにかかうのかれきこえさせ給ましかりける御すくせはいときこえさせ侍らんかたなしおりこそいとわりなう侍れなを今日はいておはしまして御心さし侍はのとかにもときこゆおよすけてもいふかなとおほしてわかこゝろは月ころものおもひつるにほれはてにけれは人のもとかんもいはんもしられすひたふるにおもひなりにたりすこしもみことをおもひはゝからん人のかゝるありきはおもひたちなんや御むかへにはけふはものいみなといへかし人にしらるましきことをたかためにもおもへかしこと事はかひなしとのたまひてこの人のよにしらすあはれにおほさるゝまゝによろつのそしりもわすれ給ぬへし右近いてゝこのをとなう人にかくなんのたまはするをなをいとかたわならんと申させ給へあさましうめつらかなる御ありさまをさおほしめすともかゝる御とも人ともの御こゝろにこそあらめいかてかく心をさなうはいてたてまつり給こそなめけなることをきこえさするやまかつなとも侍ましかはいかならましといふ内記はけにいとわつらはしくもあるかなとおもひたてりときかたとおほせらるゝはたれにかさなんとつたふわらひてかうかへ給ことゝものおそろしけれはさらすともにけてまかてぬへしまめやかにはをろかならぬ御けしきをみたてまつれはたれも　くみをすてゝなんよし　くとのゐ人もみなおきぬなりとていそきいてぬ右近人にしらすましうはいかゝはたはかるへきとわりなうおほゆ人

　くおきぬるにとのはさるやうありていみしうしのひさせ給けしきみたてまつれはみちにていみしきことの有けるなめり御そともなとよさりしのひてもてまいるへくなんおほせられつるなといふこたちあなむくつけやこはたやまはいとをそろしかんなる山そかし例の御さきもをはせ給はすやつれておはしましけんにあないみしやといへはあなかま　くけすなとちりはかりもきゝたらんにいといみしからむといひゐたる心ちもおそろしあやにくにとのゝ御つかひのあらんときいかにせんとはつせの観音今日ことなくてくらし給へとたいくわんをそたてけるいしやまにけふまうてさせんとてはゝきみのむかふるなりけりこの人もみなしやうしむきよまはりてあるにさらはけふはえわたらせ給ましきなめりいとくちをしきことゝいふひたかくなれはかうしなとあけて右近そちかくつかうまつりけるもやのすたれはみなおろしまはしてものいみなとかゝせてつけたり

はゝきみもや身つからおはすとてゆめみさはかしかりつといひなすなりけり御
てうつなとまいりたるさまは例のやうなれとまかなひめさましくおほされてそ
こにあらはせたまはゝとのたまふ女いとさまよう心にくき人をみならひたるに
ときのまもみさらんにしぬへしとおほしこかるゝ人を心さしふかしとはかゝる
をいふにやあらんとおもひしらるゝにもあやしかりけるみかなたれもものゝき
こえあらはいかにおほさんとまつかのうへの御こゝろをおもひいてきこゆたれ
としらぬをかへす　くいと心うしあらんまゝにのたまへいみしきけすといふと
もいよ　くなんあはれなるへきとわりなうとひたまへとその御いらへはたえて
せすこと事はいとをかしうけちかきさまにいらへきこえなとしてなひきたるを
いとかきりなくらうたしとのみゝたまふひたかくなるほとにむかへの人きたり
くるまふたつむまなる人　くのれいのあらゝかなる七八人をのこともおほくら
も例のしな　くしからぬけはひさへつりつゝいりきたれは人　くかたはらいた
かりつゝあなたにかくれよといはせなとす右近いかにせんとのなんをはします
といひたらんにけにさはかりの人をはしおははせすをのつからきゝかよひてかく
れなきこともこそあれとおもひてこの人　くにもことにいひあはせす返事かく
よへよりけかれさせたまひていとくちをしきことをおほしなけくめりしにこよ
ひゆめみさはかしくみえさせ給へれはけふはかりつゝしませたまへとてなんも
のいみにて侍る返ゝくちおしうものゝさまたけのやうにみたてまつり侍とかき
て人　くにものなとくはせてやりつあま君にもけふはものいみにてわたり給はぬといはせたり例はくらしかたくのみかすめるやまきはをなかめわひ給にくれゆくはわひしうのみおほしいらるゝ人にひかれたてまつりていとはかなくゝれぬまきるゝことなくのとけきはるのひにみれとも　くあかすその事とおほゆるくまなくあいきやうつきなつかしうをかしけなりさるはかのたいの御かたにはをとりたり大とのゝきみのさかりにゝほい給へるあたりにてはこよなかるへきほとの人をたくひなくおほさるゝほとなれはまたしらすをかしとのみゝたまふ女はまた大将とのをいときよけに又かゝる人あらんやとみしかとこまやかににほひきよらなることはこよなくおはしけりとみるすゝりひきよせてゝならひなとし給いとをかしけにかきすさみゑなとをみところおほくかきたまへれはわかき心ちにはおもひもうつりぬへし心よりほかにみさらんほとはこれをみたまへよとていとをかしけなるおとこをむなもろともにそひふしたるかたをかきたまひてつねにかくてあらはやなとの給もなみたをちぬ

なかきよをたのめてもなをかなしきはたゝあすしらぬいのちなりけりいと

かうおもふこそゆゝしけれ心に身をもさらにえまかせすよろつにたはからんほとまことにしぬへくなんおほゆるつらかりし御さまをなか　くなにゝたつねいてけんなとのたまふ女ぬらしたまへるふてをとりて

こゝろをはなけかさらましいのちのみさためなきよとおもはましかはとあるをかはらんをはうらめしうおもふへかりけりとみたまふにもいとらうたしいかなる人の心かはりをみならひてなとほゝゑみて大将のこゝにわたしはしめ給けんほとをかへす　くゆかしかり給てとひたまふをくるしかりてえいはぬことをかうのたまふこそとうちえむしたるさまもわかひたりをのつからそれはきゝいてゝんとおほすものからいはせまほしきそわりなきやよさり京へつかはしつるたいふまいりて右近にあひたりきさいのみやよりも御つかひまいて右大殿もむつかりきこえさせ給て人にしられさせ給はぬ御ありきはいとかろかろしうなめけなる事もあるをすへてうちなとにきこしめさんことも身のためなんいとからきといみしく申させたまひけりひんかしやまにひしりこらんしにとなん人にはものし侍つるなとかたりて女こそつみふかうおはするものはあれすゝろなるけそうの人をさへまとはし給てそらことをさへせさせ給よといへはひしりの名をさへつけきこえさせ給てけれはいとよしわたくしのつみもそれにてほろほし給はんまことにいとあやしき御こゝろのけにいかてかならはせ給けんかねてかうおはしますへしとうけたまはらましにもいとかたしけなけれはたはかりきこえさせてましものをあふなき御ありきにこそはとあつかひきこゆまいりてさなとまねひきこゆれはけにいかならんとおほしやるにところせきみこそわひしけれかるらかなるほとの殿上人なとにてしはしあらはやいかゝすへきかうつゝむへき人めもえはゝかりあふましくなん大将もいかに思はんとす覧さるへきほととはいひなからあやしきまてむかしよりむつましきなかにかゝるこゝろのへたてのしられたらんときはつかしう又いかにそやよのたとひにいふこともあれはまちとをなるわかをこたりもしらすうらみられ給はんをさへなんおもふゆめにも人にしられたまふましきさまにてこゝならぬところにいてたてまつらんとそのたまふけふさへかくてこもりゐたまふへきならねはいてたまひなんとするにもそてのなかにそとゝめ給らんかしあけはてぬさきにと人　くしはふきおとろかしきこゆつまとにもろともにゐておはしてえいてやり給はす

よにしらすまとふへきかなさきにたつなみたもみちをかきくらしつゝ女もかきりなくあはれとおもひけり

なみたをもほとなきそてにせきかねていかにわかれをとゝむへき身そ風の

をともいとあらましく霜ふかきあか月にをのかきぬ　くもひやゝかになりたる
心ちしてひきかへすやうにあさましけれと御ともの人　くいとたはふれにくし
とおもひてたゝいそかしにいそかしいつれは我にもあらていてたまひぬこの五
位二人なん御馬のくちにそさふらひけるさかしきやまこへいてゝそおの　くむ
まにはのるみきわのこほりをふみならすむまのあしをとさへこゝろほそくかな
しむかしもこのみちにのみこそはかゝるやまふみはしたまひしかはあやしかり
けるさとのちきりかなとおほす二条の院におはしまして女君のいと心うかりし
御ものかくしもつらけれはこゝろやすきかたにおとのこもりぬるにねられたま
はすいとさひしきにものおもひまされはこゝろよはくたいにわたり給ぬなにこ
ころなくいときよけにておはすめつらしくをかしとみたまひしひとよりも又こ
れはなをありかたきさまはしたまへりかしとみたまふものからいとよくにたる
をおもひいて給もむねふたかれはいたくものおほしたるさまにてみ丁にいりて
おほとのこもる女君もいていりきこえ給て心ちこそいとあしけれいかならんと
するにかと心ほそくなんあるまろはいみしうあはれとみをいたてまつるとも御
ありさまはいとゝうかはりなんかし人のほいはかならすかなうなれはとの給け
しからぬことをもまめやかにさへのたまふかなとおもひてかうきゝにくきこと
のもりてきこえたらはいかやうにきこえなしたるにかと人もおもひより給はん
こそあさましけれ心うきみにはすゝろなることもいとくるしくとてそむきたま
へりみやもまめたちたまひてまことにつらしとおもひきこゆることもあらんは
いかゝおほさるへきまろは御ためにをろかなる人かはひともありかたしなとゝ
かむるまてこそあれひとにはこよなうおもひおとし給へかゝめりそれもさるへ
きにこそはとことはらるゝをへたてたまふ御こゝろのふかきなんいとこゝろう
きとのたまふにもすくせのをろかならてたつねよりたるそかしとおほしいつる
になみたくまれぬまめやかなるをいとをしういかなることをきゝたまへるなら
んとおとろかるゝにいらへきこえたまはんこともなしものはかなきさまにてみ
そめたまひにしになに事もかろらかにをしはかり給にこそあらめすゝろなる人
をしるへにてそのこゝろよせをゝもひしりはしめなとしたるあやまちはかりに
おほえおとる身にこそとおほしつゝくるもよろつかなしくていとゝらうたけな
る御けはひなりかの人みつけたることはしはしきかせたてまつらしとおほせは
ことさまにおもはせてうらみ給をたゝこの大将の御ことをまめまめしくのたま
ふとおほすに人やそらことをたしかなるやうにきこえたらんなとおほすありや
なしやをきかぬまはみえたてまつらんもはつかし内より大みやの御ふみあるに

おとろきたまひてなをこゝろとけぬ御けしきにてあなたにわたり給ぬ昨日のおほつかなさをなやましくおほされたなるよろしうはまいり給へひさしうもなりにたるをときこへたまへれはさはかれたてまつらんもくるしけれとまことに御心ちもたかひたるやうにてその日はまいりたまはす上達部なとあまたまいりたまへれとみすのうちにてくらし給ゆふつかた右大将まいり給へりこなたにをとてうちとけなからたいめんしたまへりなやましけにおはしますと侍つれはみやにもいとおほつかなくおほしめしてなんいかやうなる御なやみにかときこえたまふみるからに御こゝろさはきのいとゝまされはことすくなにてひしりたつといひなからこよなかりけるやまふしこゝろかなさはかりあはれなる人をさてをきてこゝろのとかに月ひをまちわひさすらんよとおほすれいはさしもあらぬことのついてにたにわれはまめ人ともてなしなのり給をねたかり給てよろつにの給やふるをかゝることみあらはしたるをいかにの給はましされとさやうのたはれこともかけたまはすいとくるしけにみえ給へはふひなるわさかなをとろ　く　しからぬ御心ちさすかに日かすふるはいとあしきわさに侍り御風よくつくろはせ給へなとまめやかにきこえをきていてたまひぬはつかしけなる人なりかし我ありさまをいかにおもひくらへけんなとさま　くなることにつけつゝもたゝこの人をときのまわすれすおほしいつかしこにはいしやまもとまりていとつれ

　くなり御文にはいといみしき事をかきあつめたまひてつかはすそれたにこゝろやすからすときかたとめしゝは大夫のすさのこゝろもしらぬしてなんやりける右近かふるくしれりける人のとのゝ御ともにてたつねいてたるさらかへりてねんころかるとゝもたちにはいひきかせたりよろつ右近そゝらことをしならひける月もたちぬかうおほしいらるれとおはしますことはいとわりなしかうのみものををもはゝさらにえなからふましきみなめりと心ほそさをそえてなけき給大将殿すこしのとかになりぬるころ例のしのひておはしたりてらにほとけなとをかみたまふみす経せさせたまふ僧にものたまひなとしてゆふつかたこゝにはしのひたれとこれはわりなくもやつし給はすえほうしなをしのすかたあらまほしくきよけにてあゆみいりたまふよりはつかしけにようゐことなり女いかてみえたてまつらんとすらんとそらさへはつかしくおそろしきにあなかちなりし人の御ありさまうちおもひいてらるゝにまたこの人にみえたてまつらんをおもひやるなんいみしう心うきわれはとしころみる人をもみなおもひかはりぬへき心ちなんするとのたまひしをけにそのゝち御こゝちくるしとていつくにも　く例の御ありさまならてみすほうなとさはくなるをきくにも又いかにきゝておほさ

んとおもふもいとくるしこの人はたいとけはひことにこゝろふかくなまめかしきさましてひさしかりつる程のをこたりなとのたまふもことおほからすこひしかなしとをりたゝねとつねにあひみぬこひのくるしさをさまよき程にうちのたまへるいみしくいふにはまさりていとあはれと人のおもひぬへきさまをしめたまへるひとさまなりえんなるかたはさるものにてゆくすゑなかく人のたのみぬへきこゝろはへなとこよなくまさりたまへりおもはすなるさまのこゝろはへなともりきかせたらんときもなのめならすいみしくこそあんへけれあやしううつし心もなうおほしいらるゝ人をあはれとおもふもそれはいとあるましくかろきことそかしこの人にうしとおもはれてわすれたまひなんこゝろほそさはいとふかうしみにけれはおもひみたれたるけしきを月ころにこよなうものゝこゝろしりねひまさりにけりつれ　くなるすみかのほとにおもひのこすことはあらしかしとみたまふもこゝろくるしけれはつねよりも心とゝめてかたらひたまふつくらするところやう　くよろしうなしてけり一日なんみしかはこゝよりはけちかき水に花もみたまひつへし三条のみやもちかき程なりあけくれおほつかなきへたてもおのつからあるましきをこの春のほとにさりぬへくはわたしてんとおもひてのたまふもかの人のゝとかなるへきところおもひまうけたりと昨日ものたまへりしをかゝることもしらてさおほすらんよとあはれなからもそなたになひくへきにはあらすかしとおもふからにありし御さまのおもかけにおほゆれはわれなからもうたてこゝろうのみやとおもひつゝけてなきぬ御心はへのかゝらておいらかなりしこそのとかにうれしかりしか人のいかにきこえしゝせたることかあるすこしもおろかならんこゝろさしにてはかうまてまいりくへき身のほとみちのありさまにもあらぬをなとついたちころのゆふつくよにすこしはしちかうふしてなかめいたし給へりおとこはすきにしかたのあはれをおもほしいて女はいまよりそひたる身のなけきくはへてかたみにものおもはしやまのかたはかすみへたてゝさむきすさきにたてるかさゝきのすかたもところからはいとをかしうみゆるにうちはしのはる　くとみわたさるゝにしはつみふねところ　くにゆきちかひたるなとほかにてめなれぬことゝものみとりあつめたるところなれはみたまふたひことになをそのかみのことのたゝいまの心ちしていとかゝらぬ人をみかはしたらんたにめつらしきなかのあはれおほかりぬへきほとなりまいてこひしき人によそへられたるもこよなからすやう　くものゝこゝろしりみやこなれゆくありさまのおかしきにもこよなくみまさりしたるこゝちしたまふ女はかきあつめたる心のうちにもよをさるゝなみたともすれはいてたつをなくさ

めかね給つゝ

うちはしのなかきちきりはくちせしをあやふむかたにこゝろさはくないまみたまひてんとのたまふ

たえまのみよにはあやうきうちはしをくちせぬものとなをたのめとやさきさきよりもいとみすてかたくしはしもたちとまらまほしくおほさるれとひとのものいひやすからぬにいまさらなりこゝろやすきさまにてこそなとおほしなしてあか月にかへりたまひぬいとようもおとなひたりつるかなと心くるしうおほしいつることありしにまさりけりきさらきの十日のほとに内にふみつくらせ給とてこのみやも大将もまいりあひたまへりおりにあひたるものしらへともにみや御こゑはいとめてたくてむめかへなとうたひたまふなに事も人よりはこよなうまさりたまへる御さまにてすゝろなることおほしいてらるゝのみなんつみふかゝりけるゆきにはかにふりみたれかせなとはけしけれは御あそひとくやみぬこの宮の御とのゐところに人　くまいり給ものまいりなとしてうちやすみたまへり大将人にものゝたまはんとてすこしはしちかういてたまへるにゆきやう　くつもるかほしのひかりにおほ　くしきをやみはあやなしとおほゆるにほひありさまにてころもかたしきこよひもやとうちすむしたまへるもはかなきことをくちすさみにのたまへるもあやしくあはれなるけしきそへたる人さまにていとものふかけなりことしもこそあれみやはねたるやうにて御こゝろさはくおろかにはおもはぬなめりかしかたしくそてをわれのみおもひやる心ちしつるをおなしこゝろなるもあはれなりわひしくもあるかなかはかりなるもとつ人をゝきてわかゝたにまさるおもひはいかてつくへきそとねたうおほさるつとめてゆきのいとたかうつもりたるにふみたてまつりたまはんとて御前にまいりたまへる御かたちこのころいみしくさかりにきよけなりかのきみもおなしほとにていまふたつみつまさるけちめにやすこしねひまされるけしきよういなとそことさらにつくりたらんあてなるおとこのほんにしつへくものしたまふみかとの御むこにてあかぬことなしとそよ人もことはりけるさえなともおほやけ　くしきかたもおくれすそおはすへきふみかうしはてゝみな人まかてたまふみやの御文をすくれたりとすんしのゝしれとなにともきゝいれ給はすいかなる心にてかゝることをもしいつらんとそらにのみおほしほれたりかのひとの御けしきにもいとゝおとろかれ給けれはあさましうたはかりておはしましたり京にはともまつはかりきえのこりたるゆきやまふかくいるまゝにやゝふりうつみたりつねよりもわりなきまれのほそみちをわけたまふほと御ともの人もなきぬはかりおそろし

うわつらはしきことをさへおもふしるへの内記はしきふの少輔なんかけたりけるいつかたも　くこと　くしかるへきつかさなからいとつき　くしうひきあけなとしたるすかたもおかしかりけりかしこにはおはせんとありつれとかゝるゆきにはとうちとけたるに夜ふけて右近にせうそこしたりあさましうあはれときみもおもへり右近はいかになりはて給へき御ありさまにかとかつはくるしけれとこよひはつゝましさもわすれぬへしいひかへさむかたもなけれはおなしやうにむつましくおほいたるわかき人のこゝろさまもあふなからぬをかたらひていみしくわりなきことおなし心にもてかくし給へといひてけりもろともにいれたてまつるみちのほとにぬれたまへるかのところせうにほふもゝてわつらひぬへけれとかのひとの御けはひにゝせてなんもてまきらはしける夜のほとにてたちかえりたまはんも中　くなるへけれはここのひとめもいとつゝましさにときかたにたはからせ給てかはよりおちなる人のいゑにゐておはせんとかまへたりけれはさきたてゝつかはしたりけるよふくる程にまいれりいとよくようゐしてさふらふと申さすこはいかにしたまふことにかと右近もいと心あはたゝしけれはねをひれておきたる心ちもわなゝかれてあやしわらへのゆきあそひしたるけはひのやうにそふるひあかりにけるいかてかなともいひあえさせ給はすかきいたきていてたまひぬ右近はこゝのうしろみにとゝまりてしゝうをそたてまつるいとはかなけなるものとあけくれみいたすちひさきふねにのり給てさしわたり給程はるかならんきしにしもこきはなれたらんやうに心ほそくおほえてつとつきていたかれたるもいとらうたしとおほすありあけの月すみのほりて水のおもてもくもりなきにこれなんたちはなのこしまと申して御ふねしはしさしとゝめたるをみ給へはおほきやかなるいはのさましてされたるときは木のかけしけれりかれみたまへいとはかなけなれとちとせもふへきみとりのふかさをとのたまひて

　としふともかはらんものかたちはなのこしまのさきにちきるこゝろは女もめつらしからん道のやうにおほえて

　たちはなのこしまのいろはかはらしをこのうきふねそゆくゑしられぬをりから人のさまもをかしくのみなに事もおほしなすかのきしにさしつきており給に人にいたかせたらんはいと心くるしけれはいたき給てたすけられつゝいり給をいとみくるしくなに人をかくもてさはき給らんとみたてまつるときかたかおちのいなはのかみなるからうするさうにはかなくつくりたるいゑなりけりまたいとあら　くしきにあしろ屏風なと御らんしもしらぬしつらひにて風もことに

さはらすかきのもとにゆきむらきえつゝいまもかきくもりてふる日さしいてゝ
のきのたるひのひかりあひたるにひとの御かたちもまさる心ちすみやもところ
せきみちの程にかるらかなるへきほとの御そともなり女もぬきすへさせ給てし
かはほそやかなるすかたつきいとをかしけなりひきつくろふこともなくうちと
けたるさまをいとはつかしくまはゆきまてきよらなる人にさしむかひたるよと
おもへとまきれんかたもなしなつかしきほとなるしろきかきりをいつゝはかり
そてくちすそのほとまてなまめかしくいろ　くにあまたかさねたらんよりもな
つかしうきなしたりつねにみたまふ人とてもかくまてうちとけたるすかたなと
はみならひたまはぬをかゝるさへそなをめつらかにおかしうおほされけるしゝ
うもいとめやすきわか人なりけりこれさへかゝるをのこりなうみるよと女きみ
はいみしと思ふみやもこれはまたゝそわかなもらすなよとくちかため給ふをい
とめてたしとおもひきこえたりこゝのやともりにてすみけるものときかたをし
うとおもひてかしつきありけはこのおはしますやりとをへたてゝところえかほ
にゐたりこゑひきしゝめかしこまりてものかたりしけるをいらへもえせすおか
しとおもひけりいとおそろしうゝらなひたるものいみにより京のうちをさへさ
りてつゝしむなりほかの人よすなといひたり人めもたえて心やすくかたらひく
らしたまふかの人のものし給へりけんにかくてみえけんかしとおほしやりてい
みしくうらみ給二のみやをいとやむことなくてもちたてまつりたまへるありさ
まなともかたり給かのみゝとゝめたまひしひと事はのたまひいてぬそにくきや
ときかた御てうつ御くた物なとゝりつきてまいるを御らんしていみしくかしつ
かるめるまらうとのぬしさてなみえそやといましめ給ふしゝういろめかしきわ
かうとの心ちにいとおかしと思てこのたいふとそものかたりしてくらしけるゆ
きのふりつもれるにかのわかすむかたをみやりたまへれはかすみのたえ　くに
こするゑはかりみゆやまはかゝみをかけたるやうにきら　くとゆふひにかゝやき
たるによへわけこし道のわりなさなとあはれおほくそへてかたり給

　みねのゆきみきはのこほりふみわけて君にそまとふみちはまとはすこはた
のさとにむまはあれとなとあやしきすゝりめしいてゝてならひ給

　ふりみたれみきはにこほるゆきよりもなかそらにてそわれはけぬへきとか
きけちたりこの中そらをとかめ給けにくゝもかきてけるかなとはつかしくてひ
きやりつさらてたにみるかひある御ありさまをいよ　くあはれにいみしと人の
こゝろにしめられむとつくしたまふ事のはけしきいはんかたなし御ものいみふ
つかとたはかり給へれはこゝろのとかなるまゝにかたみにあはれとのみふかく

おほしまさる右近はよろつにれいのいひまきらはして御そなとたてまつりたり
けふはみたれたるかみすこしけつらせてこきゝぬにこうはいのおり物なとあは
ひおかしうきかへてゐ給へりしゝうもあやしきしひらきたりしをあさやきたれ
はそのもをとり給てきみにきせ給て御てうつまいらせ給ひめみやにこれをたて
まつりたらはいみしきものにし給てんかしいとやむことなきゝはの人おほかれ
とかはかりのさましたるはかたくやとみ給かたわなるまてあそひたはふれつゝ
くらしたまふしのひてゐてかくしてん事を返ゝの給その程かのひとにみえたら
はといみしき事ともをちかはせ給へはいとわりなきことゝ思ひていらへもやら
すなみたさへおつるけしきさらにめのまへにたにおもひうつらぬなめりとねた
うむねいたうおほさるうらみてもなきてもよろつのたまひあかして夜ふかくゐ
てかへりたまふれいのいたきたまふいみしくおほすめる人はかうはよもあらし
よみしりたまへりやとのたまへはけにとおもひてうなつきてゐたるいとらうた
けなり右近つまとはなちていれたてまつるやかてこれよりわかれていてたまふ
もあかすいみしとおほさるかやうのかへさは猶二条にそおははしますいとなやま
しうしたまひてものなとたえてきこしめさすひをへてあをみやせ給御けしきも
かはるをうちにもいつくにもおもほしなけくにいとゝものさはかしくて御ふみ
たにこまかにはえかきたはゝすかしこにもかのさかしきめのとむすめのこうむ
ところにいてたりけるかへりきにけれはこゝろやすくもえみすかくあやしきす
まひをたゝかのとのゝもてなしたまはんさまをゆかしくまつ事にてはゝきみも
思ひなくさめたるにしのひたるさまなからもちかくわたしてんことをおほしな
りにたれはいとめやすくうれしかるへき事におもひてやう　く人もとめわらは
のめやすきなとむかへておこせ給わかこゝろにもそれこそはあるへき事にはし
めよりまちわたれとはおもひなからあなかちなるひとの御事をおもひいつるに
うらみたまひしさまのたまひし事ともおもかけにつとそひていさゝかまとろめ
はゆめにみえ給つゝいとうたてあるまておほゆあめふりやまてひころおほくな
るころいとゝやまちおほしたえてわりなくおほされけれはおやのかうこはとこ
ろせきものにこそとおほすもかたしけなしつきせぬことゝもかきたまひて
　なかめやるそなたの雲もみえぬまてそらさへくるゝころのわひしさふてに
まかせてかきみたり給へるしもみところありをかしけなりことにいとおもくな
とはあらぬわかき心ちにいとゝかゝるをおもひもまさりぬへけれとはしめより
ちきり給しさまもさすかにかれは猶いとものふかう人からのめてたきなともよ
の中をしりにしはしめなれはにやかゝるうき事きゝつけておもひうとみ給なん

よにはいかてかあらんいつしかとおもひまとふおやにもおもはすに心つきなし
とこそはもてわつらはれめかくこゝろいられしたまふ人はたいとあたなる御本
上とのみきゝしかはかゝるほとこそあらめ又かうなから京にもかくしする給ひ
なからへてもおほしかすまへむにつけてはかのうへのおほさん事よろつかくれ
なきよなりけれはあやしかりしゆふくれのしるへはかりにたにかうたつねいて
たまふめりましてわかありさまのともかくもあらんをわか心もきすありてかの
ひとにうとまれたてまつらん猶いみしかるへしとおもひみたるゝおりしもかの
殿より御つかひありこれかれとみるもうたてあれは猶事おほかりつるをみつゝ
ふし給へれはしゝう右近みあはせてなをうつりにけりなといはぬやうにていふ
事はりそかしとのゝ御かたちをたくひおはしまさしとみしかとこの御ありさま
はいみしかりけりうちみたれたまへるあい行よまろならはかはかりの御おもひ
をみる　くゑかくてあらしきさいの宮にもまいりてつねにみたてまつりてんと
いふ右近うしろめたの御こゝろのほとやとのゝ御ありさまにまさり給人はたれ
かはあらんかたちなとはしらす御こゝろはへけはひなとよ猶この御事はいとみ
くるしきわさかないかゝならせ給はんとすらんとふたりしてかたらふ心ひとつ
におもひしよりはそら事もたよりいてきにけりのちの御ふみには思なからひこ
ろになる事とき　くはそれよりもおとろかい給はんこそおもふさまならめおろ
かなるにやはなとはしかきに

　みつまさるおちのさと人いかならんはれぬなかめにかきくらすころつねよ
りも思やりきこゆる事まさりてなんとしろきしきしにたてふみなり御てもこま
かにおかしけならねとかきさまゆへ　くしくみゆみやはいとおほかるをちゐさ
くむすひなし給へるさま　くおかしまつかれを人みぬほとにときこゆけふはき
こゆましとはちらひてゝならひに

　さとのなを我身にしれはやましろのうちのわたりそいとゝすみうき宮のか
きたまへりしゑを時　くみてなかれけりなからへてあるましき事そとゝさまか
うさまにおもひなせとほかにたえこもりてやみなんはいとあはれにおほゆへし

　かきくらしはれせぬみねのあまくもにうきてよをふる身をもなさはやまし
りなはときこえたるをみやはよゝとおほしやるにもものおもひてゐたらんさま
のおもかけにみえたまふまめ人はのとかにみたまひつゝあはれいかになかむら
んと思やりていとゝ恋し

　つれ　くと身をしるあめのおやまねは袖さへいとゝみかさまさりてとある
をうちもおかすみ給女みやにものかたりなときこえ給てのついてになめしとも

やおほさんとつゝましなからさすかにとしへぬる人の侍をあやしきところにすてをきていみしくものおもふなるか心くるしさにちかうよひよせてとおもひ侍むかしよりことやうなるこゝろはへ侍し身にて世中をすへてれいの人ならてすくしてんとおもひ侍しをかくみたてまつるにつけてひたふるにもすてかたけれはありと人にもしらせさりし人のうへさへ心くるしうつみへぬへきこゝちしてなんときこえ給へはいかなることに心をくものともしらぬをといらへ給ふ内になとあしさまにきこしめさする人や侍らん世の人のものいひそいとあちきなくけしからす侍やされとそれはさはかりのかすにたに侍ましなときこえたまふつくりたるところにわたしてんとおほしたつにかゝるれうなりけりなとはなやかにいひなす人やあらんなとくるしけれはいとしのひてさうしはらすへき事なとひとしもこそあれこの内記かしる人のをやおほくらのたいふなる物むつましくこゝろやすきまゝにのたまひつけたりけれはきゝつきて宮にはかくれなくきこえけりゑしともなとも御すいしんともの中にあるむつましき殿人なとをえりてさすかにわさとなんせさせ給ふと申すにいとゝおほしさはきてわか御めのととをきすらうのめにてくたるいへしもつかたにあるをいとしのひたる人しはしかくいたらんとかたらひたまひけれはいかなる人にかはとおもへとたいしとおほしたるにかたしけなけれはさらはときこえけりこれをまうけ給てすこし御こゝろのとめ給この月のつこもりかたにくたるへけれはやかてそのひわたさんとおほしかまふかくなん思ふゆめ　くといひやり給つゝおはしまさん事はいとわりなくあるうちにもこゝにもめのとのいとさかしけれはかたかるへきよしをきこゆ大将とのはう月十日となんさため給へりけるさそふみつあらはとはおもはすいとあやしういかにしなすへき身にかあらんとうきたる心地のみすれははゝの御もとにしはしわたりておもひめくらすほとあらんとおほせと少将のめこうむへきほとちかくなりぬとてすほときやうなとひまなくさはけはいしやまにもえいてたつましはゝそこちわたり給へるめのといてきてとのより人　くのさうそくなともこまかにおほしやりてなんいかてきよけになに事をもと思給ふれとまゝかこゝろひとつにはあやしくのみそしいて侍らんかしなといひさはくか心地よけなるをみたまふにもきみはけしからぬ事ともものいてきて人わらへならはたれも　くいかにおもはんあやにくにのたまふ人はたやへたつ山にこもるともかならすたつねてわれも人もいたつらになりぬへし猶心やすくかくれなん事をおもへとけふものたまへるをいかにせんと心ちあしくてふし給へりなとかくれいならすいたくあをみやせ給へるとおとろき給ふ日ころあやしくのみなんはかな

きものもきこしめさすなやましけにせさせ給といへはあやしき事かなものゝけなとにやあらんといかなる御心ちそとおもへといしやまもとまり給にきかしといふもかたわらいたけれはふしめなりくれて月いとあかしありあけのそらを思いつるなみたのいとゝとめかたきはいとけしからぬ心かなとおもふはゝ君むかしものかたりなとしてあなたのあまきみよひいてゝこひめきみの御ありさま心ふかくおはしてさるへき事もおほしいれたりしほとにめにみす　くきえいり給にし事なとかたるおはしまさましかはみやのうへなとのやうにきこえかよひたまひて心ほそかりし御ありさまとものいとこよなき御幸にそ侍らましかしといふにもわかむすめはこと人かはおもふやうなるすくせのおはしはてはおとらしをなと思ひつゝけてよとゝもにこの君につけてはものをのみおもひみたれしけしきのすこしうちゆるひてかくてわたり給ぬへかめれはこゝにまいりくる事かならすしもことさらにはえ思たち侍しかゝるたいめんのおり　くにむかしのこともこゝろのとかにきこえうけ給はらまほしけれなとかたらふゆゝしきみとのみおもふ給へしみにしかはこまやかにみたてまつりきこえさせんもなにかはとつゝましくすくし侍つるをうちすてゝわたらせ給なはいとこゝろほそくなん侍へけれとかゝる御すまゐは心もとなくのみみたてまつるをうれしくも侍へかなるかなよにしらすおも　くしくおはしますへかめるとのゝ御ありさまにてかくたつねきこえさせ給しもおほろけならしときこえおき侍にしうきたる事にやは侍けるなといふのちはしらねとたゝいまはかくおほしはなれぬさまにのたまふにつけてもたゝ御しるへをなん思いてきこゆる宮のうへのかたしけなくあはれにおほしたりしもつゝましき事なとのをのつから侍しかは中そらにところせき御身なりとおもひなけき侍てといふあまきみうちわらひてこのみやのいとさはかしきまていろにおはしますなれはこゝろはせあらんわかき人さふらひにくけになんおほかたはいとめてたき御ありさまなれとさるすちの事にてうへのなめしとおほさんなんわりなきとたいふかむすめのかたり侍しといふにもさりやましてときみはきゝふし給へりあなむくつけやみかとの御むすめをもちたてまつり給へる人なれとよそ　くにてあしくもよくもあらんはいかゝはせんとおほけなく思なし侍よからぬことをひきいてたまへらましかはすへて身にはかなしくいみしとおもひきこゆとも又みたてまつらさらましなといひかはす事ともにいとゝ心もきもゝつふれぬ猶わか身をうしなひてはやつゐにきゝにくき事はいてきなんと思つゝくるにこの水のをとのおそろしけにひゝきてゆくをかゝらぬなかれもありかし世にゝすあらましきところにしもとし月をすくしたまふをあは

れとおほしぬへきわさになんとはゝ君したりかほにいひゐたりむかしよりこのかはのはやくおそろしきことをいひてさいつころわたしもりかむまこのわらはさほさしはつしておちいり侍にけるすへていたつらになる人おほかる水に侍りとひと　くもいひあえりきみはさてもわか身ゆくゑもしらすなりなはたれも
　くあえなくいみしとしはしこそおもふたまはめなからへてひとわらへにうきこともあらんはいつかそのものおもひのたえんとすると思ひかくるにはさはりところもあるましうさはやかによろつなさるれとうち返しいとかなしおやのよろつにおもひいふありさまをねたるやうにてつく　くとおもひみたるなやましけにてやせ給へるをめのとにもいひてさるへき御いのりなとせさせ給へまつりはらへなともすへきやうなといふみたらしかはにみそきせまほしけなるをかくもしらてよろつにいひさはく人すくなゝめりよくさへからんあたりをたつねていまゝいりはとゝめ給へやむことなき御なからひはさうしみこそなに事もおいらかにおほさめよからぬ中となりぬるあたりはわつらはしきこともありぬへしかくしひそめてさるこゝろし給へなと思いたらぬ事なくいひをきてかしこにわつらひ侍る人もおほつかなしとてかへるをいとものおもはしくよろつ心ほそけれは又あひみてもこそともかくもなれとおもへは心ちのあやしく侍にもみたてまつらぬかいとおほつかなくおほえ侍をしはしもまいりこほしくこそとしたふさなん思侍れとかしこもいとものさはかしく侍りこの人　くもはかなきことなとはしやるましくせはくなと侍れはなんたけふのこうにうつろひ給ともしのひてはまいりきなんをなを　くしき身の程はかゝる御ためこそいとをしく侍れなとうちなきつゝの給とのゝ御文は今日もありなやましときこえたりしをいかゝとゝふらひ給へり身つからと思ひ侍をわりなきさはりおほくてなんこのほとのくらしかたさこそ中　くくるしくなとあり宮は昨日の御返もなかりしをいかにおほしたゝよふそかせのなひかんかたもうしろめたくなんいとゝほれまさりてなかめ侍なとこれはおほくかき給へりあめふりし日きあひたりし御つかひともそけふきたりけるとのゝみすいしんかの少輔かいゑにて時　くみるをのこなれはまうとはなしにこゝにはたひ　くまいるそとゝふわたくしにとふらふへき人のもとにまうてくるなりといふわたくしの人にやえんあるふみはとらするけしきあるまうとかなものかくしはなにそといふまことはこのかうのきみの御ふみ女房にたてまつり給といへは事たかひつゝあやしとおもへとこゝにてさためいはむもことやうなるへけれはおの　くまいりぬかと　くしきものにそともにあるわらはをこのをのこにさりけなくてめつけよさゑもんのたいふのいゑにやい

るとみせけれはみやにまいりてしきふのせうになん御文とらせ侍りつといふさまてたつねむものともおとりのけすはおもはすことの心をもふかうしらさりけれはとねりの人にみあらはされにけんそくちをしきやとのにまいりていまいて給はんとするほとに御文たてまつらすなをしにて六条の院にきさいの宮のいてさせ給へるころなれはまいり給なりけれはこと　くしくこせんなとあまたもなし御ふみまいらする人にあやしきことの侍りつるみたまひさためむとていままてさふらひつるといふをほのきゝ給てあゆみいて給まゝになに事そとゝひたまふこのひとのきかんもつゝましと思てかしこまりておりとのもしかみしり給ていてたまひぬ宮れいならすなやましけにおはしますとて宮たちもみなまいり給へりかんたちめなとおほくまいりつとひてさはかしけれとことなる事もおはしまさすかの内記は上くわんなれはをくれてそまいれるこの御ふみもたてまつるを宮大はんところにおはしましてとくちにめしよせてとりたまふを大将おまへのかたよりたちいてたまふそはめにみとをし給てせちにもおほすへかめるふみのけしきかなとおかしさにたちとまり給へりひきあけてみたまふくれなゐのうすやうにこまやかにかきたるへしとみゆふみにこゝろいれてとみにもむき給はぬにおとゝもたちてとさまにおはすれはこの君はさうしよりいて給とておとゝいてたまふとうちしはふきておとろかいたてまつり給ひきかくし給へるにそおとゝさしのそき給へるおとろきて御ひもさし給とのもついゐ給てまかて侍ぬへしれいの御しやけのひさしくおこらせ給はさりつるをおそろしきわさなりや山のさすたゝいまさうしにつかはさんといそかしけにてたちたまひぬ夜ふけてみないて給ぬおとゝは宮をさきにたてまつり給てあまたの御こともものかんたちめきみたちをひきつゝけてあなたにわたり給ぬこの殿はおくれていて給すいしんけしきはみつるあやしとおほしけれはこせんなとおりて火ともすほとにすいしんめしよすまうしつるはなに事そとゝひ給けさかのうちにいつものこんのかみときかたの朝臣のもとに侍おとこのむらさきのうすやうにてさくらにつけたるふみをにしのつまとによりて女房にとらせ侍つるみたまひつけてしか　くとひ侍つれはことたかへつゝそら事のやうに申侍つるをいかに申すそとてわらはへしてみせ侍つれは兵部卿の宮にまいり侍てしきふのせうみちさたの朝臣になんその返事はとらせ侍けると申す君あやしとおほしてその返事はいかやうにしてかいたしつるそれはみ給へすことかたよりいたし侍にける下人の申侍つるはあかきしきしのいときよらなるとなん申侍つときこゆおほしあはするにたかふことなしさまてみせつらんをかと　くしとおほせと人ちかけれはくはしくもの給

はすみちすから猶いとおそろしくくまなくおはするみやなりやいかなりけんついてにさる人ありときゝ給けんいかていひより給けんゐなかひたるあたりにてかうやうのすちのまきれはえしもあらしと思けるこそおさなけれさてもしらぬあたりにこそさるすきことをものたまはめむかしよりへたてなくてあやしきまてしるへしゐてありきたてまつりし道にしもうしろめたくおほしよるへしやと思ふにいとこゝろつきなしたいの御かたの御ことをいみしくおもひつゝとしころすくすはわか心のをもさこよなかりけりさるはそれはいまはしめてさまあしかるへき程にもあらすもとよりのたよりにもよれるをたゝ心のうちのくまあらんかわかためもくるしかるへきによりこそおもひはゝかるもおこなるわさなりけりこのころかくなやましくし給てれいよりも人しけきまきれにいかてはる

くとかきやり給らんおはしやそめにけんいとはるかなるけさうの道なりやあやしくておはしところたつねられ給日もありときこえきかしさやうの事におほしみたれてそこはかとなくなやみ給なるへしむかしをおほしいつるにもえおはせさりしほとのなけきいと　くほしけなりきかしとつく　くとおもふに女のいたくもの思たるさまなりしもかたはし心えそめ給てはよろつおほしあはするにいとうしありかたきものは人の心にもあるかならうたけにおほとかなりとはみえなからいろめきたるかたはそひたる人そかしこのみやの御くにてはいとよきあはひなりと思もゆつりつへくのく心ちし給へとやむことなくおもひそめし人ならはこそあらめなをさるものにておきたらんいまはとてみさらんはたいとこひしかるへしと人わろくいろ　く心のうちにおほすわれすさましくおもひなりてすてをきたらはかならすかのみやよひとり給てん人のためのちのいとをしさをもことにたとり給ましさやうにおほす人こそ一品の宮の御かたに人二三人まいらせ給たなれさていてたちたらんをみきかんいとをしくなと猶すてかたくけしきみまほしくて御文つかはすれいのすいしんめして御てつから人まにめしよせたりみちさたの朝臣は猶なかのふかいゐにやかよふさなん侍と申すうちへはつねにやこのありけんおのこはやるらんかすかにてゐたる人なれはみちもおもひかくらんかしとうちうめき給て人にみえてをまかれおこなりとの給かしこまりて少輔かつねにこの殿の御事あないしかしこの事とひしもおもひあはすれとものなれてえ申いてす君もけすにくはしうはしらせしとおほせはとはせ給はすかしこには御つかひのれいよりもしけきにつけても物おもふ事さま　くなりたゝかくその給へる

なみこゆるころともしらすゝゐのまつまつらんとのみ思ひけるかな人にわ

らはせ給なとあるをいとあやしとおもふにむねふたかりぬ御返事をこゝろえかほにきこえんもいとつゝましくひか事にてあらんもあやしけれは御ふみはもとのやうにしてところたかへのやうにみえ侍れはなんあやしくなやましくてなに事もとかきそへてたてまつれつみ給てさすかにいたくもしたるかなかけてみおはぬこゝろはへよとほゝゑまれたまふもにくしとはえおほしはてぬなめりまほならねとほのめかしたまへるけしきをかしこにはいとゝ思ひそふつゐにわか身はけしからすあやしうなりぬへきなめりといとゝおもふ所に右近きてとのゝ御ふみはなとてかへしたてまつらせ給つるそゆゝしくいみ侍るなる物をひか事のあるやうにみえつれはところたかへとてとのたまふあやしとみけれは道にてあけてみるなりけりよからすの右近かさまやなみつとはいはてあないとをしみくるしき御事ともにこそ侍れ殿はものゝけしき御らんしたるへしといふにふみゝつらんとおもはねはことさまにてかの御けしきみるひとのかたりたるにこそはと思ふにたれかさいふそなともえとひ給はすおもてさとあかみてものものたまはすこの人　くのみ思ふらんこともいみしくはつかしわかこゝろもてありそめし事ならねとも心うきすくせかなと思ひいりてゐたるにしゝうとふたりして右近かあねのひたちにても人ふたりみ侍しをほと　くにつけてはかくそかしこれもかれもおとらぬ心さしにて思ひまとひてはへりしほとに女はいまのかたにすこし心よせまさりてそ侍りけるそれにねたみてつゐにいまのをはころしてしそかしさて我もすみ侍らすなりにきくにゝもいみしきあたらつはものうしなひつまたこのあやまちにたるもよきらうとうなれとかゝるあやまちしたるものをいかてかはつかはんとてくにのうちをもをいはらはれすへて女のたい　くしきそとてたちのうちにもおい給へらさりしかはあつまの人になりてまゝもいまにこひなき侍はつみふかくこそみ給ふれゆゝしきついてのやうに侍れと上も下もかゝるすちの事はおほしみたるゝはいとあしきわさなり御いのちまてにはあらすとも人の御ほと　くにつけて侍ことなりしぬるにまさるはちなる事もよき人の御身には中　く侍なりひとかた　くにおほしさためてよ宮も御心さしまさりてまめやかにたにきこえさせ給はゝそなたさまにもなひかせ給てものないたくなけかせたまひそやせおとろへさせ給もいとやくなしさはかりうへの思ひいたつききこえさせ給ものをまゝかこの御いそきにこゝろをいれてまとひゐて侍につけてもそれよりこなたにときこえさせ給御事こそいと心くるしくいとをしけれといふにいまひとりうたておそろしきまてなきこえさせ給そなに事も御すくせにてこそあらめたゝ御心のうちにすこしおほしなひかんかたをさるへきにおほ

しならせ給へいてやいとかたしけなくいみしき御けしきなりしかは人のかくおほしいそくめりしかたにも心もよらすしはしはかくろへても御おもひのまさらせ給はんによらせ給ねとそおもひ侍とみやをいみしくめてきこゆる心なれはひた道にいふいさや右近はとてもかくてもことなくすくさせ給へとはつせいし山なとに願をなんたてゝ侍この大将殿の御さうの人　くといふものはいみしきふてうものともにてひとるいこのさとにみちて侍なりおほかたこの山しろ山とにとのゝりやうし給所　くの人なんみなこのうとねりといふものゝゆかりかけつゝ侍なるそれかむこの右近のたいふといふものをもとゝしてよろつの事をゝきておほせられたるなゝりよき人の御中とちはなさけなきことしいてよとおほすとも物ゝ心えぬゐ中ひとゝものとのゐ人にてかはり　くさふらへはをのかはんにあたりていさゝかなる事あらせしなとあやまちもし侍なんありしよの御ありきはいとこそむくつけく思たまへられしかみやはわりなくつゝませ給とて御ともの人もゐておはしまさすやつれてのみおはしますをさるものゝみつけたてまつりたらんはいといみしくなんといひつゝくるをきみ猶われを宮に心よせたてまつりたるとおもひてこの人　くのいふいとはつかしく心ちにはいつれとも思はすたゝゆめのやうにあきれていみしくいられたまふをはなとかくしもとはかりおもへとたのみきこえてとしころになりぬる人をいまはともてはなれんとおもはぬによりこそかくいみしとものもおもひみたるれけによからぬ事もいてきたらん時とつく　くとおもひゐたりまろはいかてしなはやとよつかぬこゝろうかりける身かなかくうきことあるためしはけすなとの中にたにもおほくやはあなるとてうつふし　く給へはかくなおほしめしそやすらかにおほしなせとてこそきこえさせはへれおほしぬへきことをもさらぬかほにのみのとかにみえさせ給へるをこの御事のゝちいみしくこゝろいられをせさせ給へはいとあやしくなんみたてまつると心しりたるかきりはみなかくおもひみたれさはくにめのとをのかこゝろをやりてものそめいとなみゐたりいまゝいりわらはなとのめやすきをよひとりつゝかゝる人御らんせよあやしくてのみふさせ給るへはものゝけなとのさまたけきこえさせんとするにこそとなけくとのよりはかのありし返事をたにの給はて日ころへぬこのおとしゝうとねりといふものそきたるけにいとあら　くしくふつゝかなるさましたるおきなのこゑかれさすかにけしきある女房にものとり申さんといはせたれは右近しもあひたりとのにめし侍しかはけさまいり侍てたゝいまなんまかりかへり侍つるさうしともおほせられつるついてにかくておはしますほとに夜中あか月の事もなにかしらかくてさふらふとおも

ほしてとのゐ人わさとさしたてまつらせ給事もなきをこのころきこしめせは女房の御もとにしらぬところ　くの人　くかよふやうになんきこしめす事あるたい　くしきことなりとのゐにさふらふものともはそのあないといきゝたらんしらてはいかてかさふらふへきとゝはせ給へるにうけたまはらぬ事なれはなにかしは身のやまゐをもく侍てとのゐつかまつる事は月ころをこたりて侍れはあんないもえしり侍らすさるへきおのこともはけたいなくもよをしさふらはせ侍をさの事きひしやうの事さふらはんをはいかてかうけたまはらぬやうは侍らんとなん申させ侍つるよういしてさふらへひんなきこともあらはおもくかんたうせしめ給へきよしなんおほせ事侍つれはいかなるおほせ事にかとおそれ申侍といふをきくにふくろふのなかんよりもいとものおそろしいらへもやらてさりやきこえさせしにたかはぬ事ともをきこしめせものゝけしきは御らんしたるなめり御せうそこも侍らぬかなとなけくめのとはほのうちきゝていとうれしくおほせられたりぬす人おほかるわたりにとのゐ人もはしめのやうにもあらすみな身のかはりそといひつゝあやしきけすをのみまいらすれは夜行をたにえせぬにとよろこふ君はけにたゝいまいとあしくなりぬへき身なめりとおほすに宮よりはいかに　くとのみこけのみたるゝわりなさをのたまふいとわつらはしくてなんとてもかくてもひとかた　くにつけていとうたてあることはいてきなんわか身ひとつのなくなりなんのみこそめやすからめむかしはけさうする人のありさまのいつれれともなきに思わつらひてたにこそ身をなくるためしもありけれなからへはかならすうき事みえぬへき身のなくならんはなにかおしかるへきおやもしはしこそなけきまとひ給はめあまたの子ともあつかひにをのつからわすれくさつみてんとありなからもてそこなひ人わらへなるさまにてさすらへんはまさるおもひなるへしなとおもひなるこめきおほとかにたを　くとみゆれとけたかう世のありさまをもしるかたすくなくておほしたてたる人にしあれはすこしをすかるへきことをおもひよるなりけんかしむつかしきほくなとやりておとろ　くしくひとたひにもしたゝめすとうたいの火にやき水になけいれさせなとやう

　くうしなふ心しらぬこたちはものへわたり給へけれはつれ　くなる月日をへてはかなくしあつめ給へるてならひなとをやり給なめりとおもふしゝうなとそみつくるときはなとかくはせさせ給あはれなる御中にこゝろとゝめてかきかはし給へるふみは人にこそみせさせ給はさらめものゝそこにおかせ給て御覧するなん程ほとにつけてはいとあはれに侍さはかりめてたき御かみつかひかたしけなき御ことのはをつくさせ給へるをかくのみやらせたまふなさけなきことゝい

ふなにかむつかしくなかゝるましき身にこそあめれおちとゝまりて人の御ためもいとをしからんさかしらにこれをとりをきけるよともりきゝ給はんこそはつかしけれなとのたまふ心ほそきことをもおもひもてゆくにはまたえおもひたつましきわさなりけりおやをゝきてなくなる人はいとつみふかゝなるものをなとさすかにほのきゝたることをも思ふ廿日かあまりにもなりぬかのいゑあるし廿八日にくたるへし宮はその夜かならすむかへんしも人なとによくけしきみゆましきこゝろつかひし給へこなたさまよりはゆめにもきこえあるましうたかひたまふなゝとのたまふさてあるましきさまにておはしたらんにいまひとたひものをもえきこえすおほつかなくて返したてまつらん事よ又時のまにてもいかてかこゝにはよせたてまつらんとするかひなくうらみてかへり給はんさまなとを思ひやるにれいのおもかけはゝなれすたえすかなしくてこの御ふみをかほにをしあてゝしはしはつゝめともいといみしくなき給右近あかきみかゝる御けしきつゐに人みたてまつりつへしやう　くあやしなと思ふ人侍へかめりかうかゝつらひおもほさてさるへきさまにきこえさせてよ右近侍らはおほけなき事もたはかりいたし侍らはかはかりちゐさき御身ひとつはそらよりいてたてまつらせ給なんといふとはかりためらひてかくのみいふこそ心うけれさもありぬへき事と思ひかけはこそあらめあるましきことゝみな思ひとるにわりなくかくのみたのみたるやうにのたまへはいかなることをしいて給はんとするにかなとおもふにつけて身のいと心うきなりとて返事もきこえたまはすなりぬ宮かくのみ猶うけひくけしきもなくて返事さへたえ　くになるはかの人のあるへきさまにいひしたゝめてすこし心やすかるへきかたに思さたまりぬるなめりことはりとおほす物からいとくちをしくねたくさりとも我をはあはれと思たりしものをあひみぬとたえに人　くのいひしらするかたによるならむかしなとなかめ給にゆくかたしらすむなしきそらにみちぬる心ちし給へはれいのいみしくおほしたちてをはしましぬあしかきのかたをみるにれいならすあれはたそといふこゑゐ　くいさとけなりたちのきて心しりのをのこをいれたれはそれをさへとふさき　くのけはひにもにすわつらはしくて凉よりとみの御ふみあるなりといふ右近かすさのなをよひてあひたりいとわつらはしくいとゝおほゆさらにこよひはふようなりいみしくかたしけなき事といはせたり宮なとかくもてはなるらんとおほすにわりなくてまつ時かたいりてしゝうにあひてさるへきさまにたはかれとてつかはすかと　くしき人にてとかくいひかまへてたつねあひたりいかなるにかあらんかの殿のゝたまはする事ありとてとのゐにあるものともものさかしかりたちたるころ

にていとわりなきなりおまへにもものをのみいみしくおほしためるはかゝる御ことのかたしけなきをおほしみたるゝにこそはとこゝろくるしくなんみたてまつるさらにこよひは人けしきみ侍なは中　くにいとあしかりなんやかてさも御こゝろつかひせさせたまひつへからん夜こゝにも人しれすおもひかまへてなんきこえさすへかめるめのとのいさとき事なとももかたるたいふおはしますみちのおほろけならすあなかちなる御けしきにあえなくきこえさせんなむたい　くしきさらはいさたまへともにくはしくきこえさせ給へといさなふいとわりなからんといひしろふ程に夜もいたくふけゆく宮は御むまにてすこしとほくたちたまへるにさとたひるこゑしたるいぬとものいてきてのゝしるもいとおそろしく人すくなにいとあやしき御ありきなれはすゝろならんものゝはしりきたらむもいかさまにとさふらふかきり心をそまとはしける猶とく　くまいりなんといひさはかしてこのしゝうをゐてまいるかみわきよりかひこしてやうたいゝとをかしき人なりむまにのせんとすれとさらにきかねはきぬのすそをとりてたちそひてゆくわかくつをはかせて身つからはともなる人のあやしきものをはきたりまいりてかくなんときこゆれはかたらひたまふへきやうたになけれはやまかつのかきねのおとろむくらのかけにあふりといふものをしきておろしたてまつるわか御心ちにもあやしきありさまかなかゝる道にそこなはれてはか　くしくはえあるましき身なめりとおほしつゝくるになき給ことかきりなしこゝろよはき人はましていといみしくかなしとみたてまつるいみしきあたをおにゝつくりたりともをろかにみすつましき人の御ありさまなりためらひ給てたゝひと事もえききこえさすましきかいかなれはいまさらかゝるそなを人　くのいひなしたるやうあるへしとのたまふありさまくはしくきこえてやかてさおほしめさん日をかねてはちるましきさまにたはからせたまへかくかたしけなき事ともをみたてまつり侍れは身をすてゝも思ふたまへたはかり侍らんときこゆわれも人めをいみしくおほせはひとかたにうらみ給はんやうもなし夜はいたくふけゆくにこのものとかめするいぬのこゑたえす人　くをひさけなとするにゆみひきならしあやしきをのこともこゑともして火あやふしなといふもいとこゝろあはたゝしけれはかへり給ほといへはさらなり

いつくにか身をはすてんとしら雲のかゝらぬ山もなく　くそゆくさらははやとてこの人をかへし給ふ御けしきなまめかしくあはれに夜ふかき露にしめりたる御かのかうはしさなとたとへんかたなしなく　くそかへりきたる右近いひきりつるよしいひたるに君はいよ　くおもひみたるゝ事おほくてふし給へるに

いりきてありつるさまかたるいらへもせねとまくらのやう　くうきぬるをかつはいかにみるらんとつゝましつとめてもあやしからんまみをおもへはむこにふしたりものはかなけにおひなとして経よむをやにさきたちなんつみうしなひたまへとのみおもふありしゑをとりいてゝみてかき給してつきかほのにほひなとのむかひきこえたらんやうにおほゆれはよへひとことをたにきこえすなりにしは猶いまひとへまさりていみしと思ふかのこゝろのとかなるさまにてみんとゆくすゑとをかるへきことをのたまひわたる人もいかゝおほさんといとをしうきさまにいひなす人もあらんこそおもひやりはつかしけれとこゝろあさくけしからす人わらへならんをきかれたてまつらんよりはなと思つゝけて

なけきわひ身をはすつともなきかけにうき名なかさんことをこそおもへおやもいとこひしくれいは事におもひいてぬはらからのみにくやかなるもこひし宮のうへをおもひいてきこゆるにもすへていまひとたひゆかしき人おほかり人はみなをの　くものそめいそきなにやかやといへとみゝにもいらす夜となれは人にみつけられすいてゝゆくへきかたをおもひまうけつゝねられぬままに心ちもあしくみなたかひにたりあけたてはかはのかたをみやりつゝひつしのあゆみよりもほとなき心地す宮はいみしき事ともをのたまへりいまさらに人やみんとおもへはこの御返事をたに思ふまゝにかゝす

からをたにうきよの中にとゝめすはいつこをはかと君もうらみんとのみかきていたしつかの殿にもいまはけしきみせたてまつらまほしけれと所　くにかきをきてはなれぬ御中なれはつゐにきゝあはせ給はん事いとうかるへしすへていかになりにけんとたれにもおほつかなくてやみなんと思ひかへす京よりはゝの御ふみもてきたりねぬる夜の夢にいとさはかしくてみえ給つれはす経所　くせさせなとし侍をやかてそのゆめのゝちねられさりつるけにやたゝいまひるねして侍ゆめに人のいむといふ事なんみえ給へれはおとろきなからたてまつるよくつゝしませたまへ人はなれたる御すまゐにてとき　くたちよらせ給人の御ゆかりもいとをそろしくなやましけにものせさせ給ふおりしも夢のかゝるをよろつになん思給ふるまいりこまほしきを少将のかたの猶いと心もとなけにものゝけたちてなやみ侍れはかた時もたちさる事といみしくいはれ侍りてなんそのちかきてらにもみす経せさせ給へとてそのれうのものふみなとかきそへてもてきたりかきりと思ふいのちのほとをしらてかくいひつゝけ給へるもいとかなしとおもふてらへ人やりたるほと返事かくいはまほしきことおほかれとつつましくてたゝ

のちにまたあひみんことをゝもはなんこの世の夢にこゝろまとはてす経の

かねの風につけてきこえくるをつく　くときゝふし給へり

かねのをとのたゆるひゝきにねをそへてわかよつきぬときみにつたへよく

わんすもてきたるにかきつけてこよひはえかへるましといへは物のえたにゆひ

つけておきつめのとあやしくこゝろはしりのするかなゆめもさはかしとのたま

はせたりつとのゐ人よくさふらへといはするをくるしときゝふし給へりものき

こしめさぬいとあやし御ゆつけなとよろつにいふをさかしかるめれとみにくゝ

おひなりて我なくはいつくにかあらんとおもひやり給もいとあはれなり世中に

ゐありはつましきさまをほのめかしていはんなとおほすにはまつおとろかされ

てさきたつなみたをつゝみ給てものもいはれす右近ほとちかくふすとてかくの

みものをおもほせはものおもふ人のたましゐはあくかるなるものなれはゆめも

さはかしきならんかしいつかたとおほしさたまりていかにも　くおはしまさん

なんとうちなけくなへたるきぬをかほにをしあてゝふしたまへりとなん